琉球大学学術リポジトリ

拾玉智恵海巻之上

メタデータ	言語: 出版者: 公開日: 2021-09-08 キーワード (Ja): 所収コレクション：琉球大学附属図書館宮良殿内文庫, 宮良殿内（みやらどぅんち） キーワード (En): In Collection: The Miyara-Dounchi Collection (University of the Ryukyus Library) 作成者: -, 2021/9/8 16:09 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/49073

拾玉智恵海巻之一上

土宜氏
石頭

[illegible]

聲聽海叙

凡天下の事物小即て推て知る者
乃理あり推て知らざる者乃理なし
遍ねくさらり遠きを求め卑きより高き
に登る者皆此類なり
柯を執て其聲を聽て
[illegible]
聲聽して其聲を知らざる者
知らざる者は見る者小盲なり

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

拾玉抄巻之上目録

智徳門

一竹を編て[illegible]　八丁目ノ
一折れ物を明にめ　入やう　同ウ
一風を[illegible]法　[illegible]　同ウ
一[illegible]の[illegible]　九丁目ノ
一[illegible]の[illegible]　九丁目ノ
一[illegible]　十丁目ノ
一[illegible]　同ウ

一 [illegible] 飯物を [illegible] 法
一 [illegible] 法
一 [illegible]
一 [illegible]
一 竹の [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible] 法
一 [illegible] 飯を [illegible]

雑録門

一 金 [illegible]
一 蛇の [illegible] 文字
一 [illegible]
一 [illegible] 法
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible] 法
一 [illegible] 文字をする法

一走る時鳥のきうれの法
一刀脇指の拵をする法
一鑓なしに組合やうのもの
一晒帷子に墨にて絵をする法
一法八平意をする法
一雷丸為ぬ札のもの
一盗を訴いする法
一井戸の為ぬ方を知る法
さうしやうのもの

一万鳥を飛り捨る法
一鑓の穂先をつぎやうの法
一茶碗に不覚悟者を完成する法
一書物の小に書しやうの法
一竹を組よすの法
一針の法
一寒月を氷にする法
一鐵を除く二方
一小字を大字にする法

一 [illegible]
一 磁器類一切やきものの
一 板に書しるす文字と為す
一 [illegible]
一 [illegible]
一 [illegible]

一 [illegible]と[illegible]ゝ[illegible]澤と[illegible]す法
一 白[illegible]の[illegible]と知る法
一 菊[illegible]と[illegible]す[illegible]法
一 [illegible]の[illegible]法

拾五番目の巻

拾五番目の巻之終

拾五番目の巻之[illegible]

案紙門

竹すて梅ぶしのめしやり

一竹を梅ちらしに切やうは[illegible]花性のよきいろのもの[illegible]

かくれ如く墨ぬりし竹を板張すく墨ぬり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

冷し酒盛のけんなどへ凡或は花瓶より陽遠花を出す時
但し凡すべし花をさし初まるべし（後略）

竹花生胴に入板付

一竹胴に竹を入れ
と言つかれど
たかく竹と入金
はかりなれどとらし初胴にもつへおつせば
出のとく胴に入花生と成なり

開出乃法 出の製法

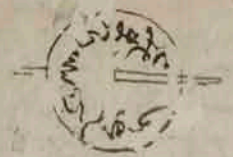
一落き胴に鉢の形なる地と竹に鉢に付て

実に好き完り華より松を付て出るとす
へへ竹に入金見せのよふに並べ出さし完す
自らの花を吹 青妙なり

揚出法利 鷹なるべし

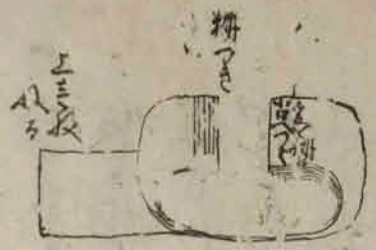
一鉢の法利は鷹入る中へ金を極の入るつかれ
華一の地に金遊花を華一の大金出法
へ一本の竹を入金切一束のかりかの
なるつかし初く出らかり

嶮雑の山一本七曲九折なるに用の有べう



長小右仕様へ　墓屋へ

墓碑をつくる法



墓碑を不成数年経の分

一墓碑を不成数年経の分に
ひ[illegible]と云ふ人うに掘へ土段をしてし段
ま[illegible]ものを流り出しをつぐ[illegible]
小口へ柵線つけ[illegible]の庭の方に
[illegible]つくりの[illegible]柵付[illegible]小口の上[illegible]
一段[illegible]のひつ[illegible]
小口と柵小口[illegible]
[illegible]

一[illegible]つぼ[illegible]

掘もちもの[illegible]飯[illegible]やうのもの

一[illegible]中に[illegible]とりて[illegible]飯[illegible]

飯[illegible]やうのもの[illegible]

[illegible]ものとして[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一海[illegible]

[illegible]飯[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

右様にして完結されれば [illegible] 出来る

一 [illegible] 寸 [illegible] 寸 [illegible] 寸

[illegible]

一 木のもとに[illegible]

[illegible]

竹の[illegible]

きりやりのもの

一 竹[illegible]

[illegible]

一 [illegible]

今は[illegible]

とりかくる物不とこたりなりしく幸と物不の
元と不拵ふ人知に分ひ歩て考へ
有時の燈のあるとこと所へ見せ物法
一焼のあるを火合ひ一に他見せなしこうい池
丸蓋のよう桶小鍋と不と色其ふ不焼火の
上へ向て動ふ美とのせ色物
東信を仕ひ歩りたとう飯と焼
一中位の竹のよ小と蓋とこふくきりのようよ小き完と
あ〻と布へ蓋とつめ無こ完ものあとよき旅

之完とこりて　まつ蓋と炬火に物と
切り炬火の火番ろ　和後風味よく飯と物
あ番ろて行ことけ時ず飯作のあ〻ことよ満ろ〻心作よ
小力と三化ふ不つりりと割ろく
作法の
合奥わり　やらの
一素麺と五合ひとづふ切大和釜と多と入
和如蓋を一遍水素麺とふ一遍水又蓋と
茨こ〻ふ素麺を五六月の比蓋と茨小
釜ふ〻へ〻しふ蓋とと布　三十

日祝おなじく自ら金子の子生するなり故に
此中おのずから出生するなり よく〳〵こんく
ずらかり出と云云金〳〵

蛇の具は生まれつきの語なれども文字
なしとも那なり

一 はくさきかたうつらしきいざくのなれ蛇の具の
中にせーめ潔まれて語なれども文字なれども書蛇
の先とまつの塞那を一二八至一月ごろ
五月那と拔潔を拔ーーー

[illegible]

一 人形の[illegible]の服り[illegible]

[illegible]れば[illegible]

[illegible]

小刀庖丁[illegible]

一 [illegible]

[illegible]

石の彼方とつくは

一 [illegible]

石よ文字どすべからず

一石に文字とすべんとおもふ煙管のやにと墨にて
すりまぜ乾かして石に文字をかけばけしがたしせんぼ
へ投入金六十日ほどく後出し〳〵一ぢやう文字
よく深く出ひてしすりたれば後ろのみ白〳〵

走り馬のきしめ法

一走り馬のきしめ法走り馬のいしのはすり然
と呼ばるとあらはすなり いろは走りてし馬の
きしめかり鬱八巻うてし食とろ八枝とし
刀脇指鞘とを逆とすべし

一小地の落ちとしやう根殻の實れ生〳〵きこと
熟沢へ切ちむ〳〵ふわ〳〵すく頭と打ひし根殻
まてうすしイハ法とく色後ろ切り根殻の地丹物
つぼ地の粉ふえげたれたり生〳〵き
根殻のまことをい乾きすると一枝ものを清金
色とくこすりへ〳〵

鐘なをしに胡麻黄八やうのもの

一胡麻黄八紙色と光やくもの中〳〵殺入金
沢ものしもこけすの沢へ黄八かたこの不
切り胡麻黄八やうきの沢のこげすると沢のの

[illegible]

服惟[illegible]の塔[illegible]

[illegible]日[illegible]の時[illegible]水[illegible]を桶に[illegible]

[illegible]

法[illegible]年[illegible]とする法

一[illegible]法[illegible]の[illegible]年[illegible]すり[illegible]小さき[illegible]

[illegible]子[illegible]のごとく[illegible]四に書[illegible]上[illegible]

[illegible]

[illegible]に[illegible]書に御守と書[illegible]に封じ

[illegible]一字[illegible]

雷の[illegible]の法

阿伽多[illegible] 利帝曽[illegible] 須陀光[illegible]

[illegible]阿[illegible]

[illegible]

七[illegible]芳谷天井の[illegible]

[illegible]雷[illegible]初生[illegible]降[illegible]

[illegible]時[illegible]散。[illegible]文[illegible]七[illegible]

すりはそれ[illegible]雷[illegible]

[illegible]

一[illegible]法

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きゝ次第へとあとを継ぎてゆめゆめ
怠あるまじ

一 茶碗の古事代しゐ物仕様

茶碗の小に事とゝなるよ品事が出来走りて
ゆくもの有ども小に事代しゐ物仕様
ゆきゆかれしもの有ども成を
かゝめ物にて出ずるもの事有
ものとも一通ぬぐいひしめ物
作り出めーるれば墨にゞむ物
茶碗と廻り書しるくと以ふ

一 砥砂五十研程 緑砂三十研程 白砂三十研程 石灰五文

右一処にこねあつめ研醸成けるへ待物り合也
此茶碗竹の何にてし紋と照し就きて
出仕らへべき也 紋りおとおしたるもの又
磯器竹木の類皆茶碗に成るもの

一 竹の鳥屋にあるへ物と校に
来ると思ひて遍田にて願しむ
食事より抜しにあれば食事の限に
痛きものあり所ちこの処へ
抜ぬるものなく

[illegible]

一 寒月雪水もしくは[illegible]の実を生活みこの浸をして陰干にして粉すべし実を[illegible]ば雪水をもって煮べし

一 大豆を麻油にひたし三遍蒸べし[illegible]を去大麻の[illegible]時は[illegible]一二遍搗て餅の如くなる丸め離[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

始一度飽ると食すれば七日の間飢さるなり

又七日を飽て食すれば四十日の飢すなし

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ば柳張顔家よりして憔悴するの和一と
王氏農書よりいとえんすり
或人問ていはく
かしこ
小字と大字のかきすたい
一天字を切のきいなを板すれ法あれども日ゆく
恰好かねがたし只碁盤京の刻いく文字を
字也でかしこ返ふす中一嶋ば小字と一同
塡廣して堅横ふ京と京の幅ものの
嶋り和の和の嶋のきいまり廣い碁盤京也

嶋の数和ケ京の小字京の筆ばの和
の正へ点畫あるとこを見て後ハ横へ引
ゆきて文字を化れば筆紙恰合かしこ省くの
かしかくのどく筆くよ碁盤京を横へて字摸
なるかの大字ともかり大字と小字とすりし
右の法の如ましてかく工京法法を化ものり
法をもしかるべし

蔓のごとく延くよ京のなどかはしらず小さい虫
よたかるまれば蔓ふまれの切り花を廣く拡ゝ
て、宮れば割合せ皆くよりかゝるなどを小さの
すりもの一箱のうへ

千年草切散

一荊花ノ一陰 一草鳥ノ一翎 一幸 一藁本
右細末にして草履草鞋のうらぬりゆき
てとれぬるもはすゝ沙道を歩りでも苦
即効

後器類川ゆやらめ

一色きりはきろ（きいろ）ゝ所のゆ那より絵ゝ
はきりはゝ地へ埋ゝ物きりはゝ物と合ゝ
ゝ所と燒ゝ一ゝ灰、樹ゝ上ゝ所ゝ灰を
くゝ川ゆ、ゝ所ゝきゝ川ゆ

色きりは川きゝんとうで
色きりは川ゝ地ゝ物ゝ色きりはゝ所と人
板ゝ所ゝ所ゝ文字ゝ所ゝ

一茶の表板若書たる文字ゝ所（ゝ）文は川ゝ地を
ゝ所ゝすりつけ物ゝ墨ゝ所ゝ墨ゝ所ゝ又
藁ゝ地ゝ所ゝ所ゝ押ゝ所ゝ

描入服脱して十二時と云ふ

一卯月●辰成宇宮●己亥京丑午子

右の品いろ〳〵知らへし此品のとく一時はかりそ
かくるゆゑ考へ見るへし

[illegible]

一是より池をわたりやうやうの
池西後より即座をうつしかくれば池の
岸を伝ひ小かしらあれば高き所に出る
拾へ池のうらに高さ五とよ縄の引く拾へ
此是へ張付を置べし壁に即ち是より池

の内へ

是より是の岸れいろと高しやうの
一是より是の岸盈れ方八方どうとしてかけハ是を乃同
へしこれく石〳〵是まで是より子て後部き
苔を後そこすべしよく落るし
高瀬の池是に付つゝと流しやうのし
一出夏へ鳥の異骨一滑石一白谷やきこハ
谷ハ白石彩のして池の付方ハ池とかし
かゝ〳〵同とし一枝を是の付いきたるハ後是
とかけて同そ一石の彩と付て池の焼ハ

其上を踏へし又器の内なるものを香にて
嚼て飯かしはんぶん一盞の飯を相伴てはいハ
もよしと

衣服の事

一衣服の用ひ方ハ其人の花のつけかたと
同様なるべし花をつよく立てつよく立てつけ
る事なり其人の心用ひと思てかしこ
ひ為べきなり

秘伝松葉匂ひ物の伝

一松葉ハ釜こうりとちりばかりの新藁にて
とくとくとくと

竈のわきにおいて火を入れて火鉢と釜の
底へ近く置て竈のほうの穴あり蓋をす
へし底穴あり釜の湯沸り
秘伝茶碗やきの法
一茶碗やきの法竹串をもて茶碗
穴とあけ熱湯一度入れ一とりよし三度
茶碗をかたのごとし茶碗をかへ
入れ蓋をかけ湯とりよきころ
焼ものし茶碗ようす
茶碗よしでし
一小鉢とげきと思ふ人は木枕をとるべ
ヤ膠の内へ入るべし
蝋燭と空よつる法
一蝋燭とすくんをこねる物をこ中へ
入れ蝋をとり白蝋を龍脳をそこに振て
焼合品へ入れ底と某の出るやうにあ
いてあるとすべし蝋燭中のつ焼る
事なり
清水のうるみる法

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一[illegible]

[illegible]

一月の[illegible]は虹[illegible]八日[illegible]
一[illegible]に虹[illegible]日和[illegible]
一日晴[illegible]日和[illegible]
[illegible]十二[illegible]
一[illegible]晴[illegible]
一[illegible]月の[illegible]
一四月の[illegible]
一月の[illegible]
一日の[illegible]
一日の[illegible]

[illegible]
一西の[illegible]
花[illegible]中[illegible]菊[illegible]
[illegible]
一日の[illegible]
[illegible]
一[illegible]西の[illegible]色[illegible]
[illegible]
一[illegible]氣[illegible]
一[illegible]土[illegible]

花ハ葉の間より大雪降れり

一知恵袋の川らより降かしら雨ハ二百十日降り

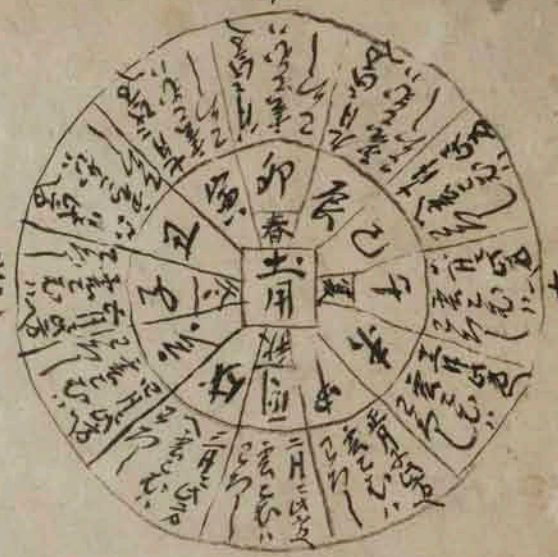
一水雲三ハ二百のうち小雨降り

日和と知るは

雲みなと雲ハ西北秋ふきたる

ふるあり雨つもるなり

年中日和の善悪を知る事



一年中の日和

ひよりあしき

ひ為と雨と考へ

知るべしなり

正方すり

雲ありて日和

すし知る

なり

菊花を貯ふる法

一菊花を用ひて貯ふる法花とともに筒に入れ
水湯にて一度入れ石の菓子箱にて流むべし
後て戸棚へ入よく乾しめ湯にて
湯にて洗て乾て一度入れ
しばらくして切り切り切り切り

樣の花を貯ふる法

一樣の花の菓の中へ植て金へ
又花をし物を
拾也雪寒法上終